

独立行政法人国立がん研究センター理事会（平成 25 年度第 1 回）議事録

日 時 平成 25 年 4 月 24 日（水）10：00～11：15
場 所 独立行政法人国立がん研究センター 第 1 会議室
出席者 堀田知光理事長 門田守人理事 中釜斉理事 荒井保明理事
小野高史監事 長崎武彦監事

議事概要

I. 理事会（平成 24 年度第 11 回）議事録の確認

- ・資料のとおり了承された。
- ・議事録署名人を荒井保明理事と小野高史監事をお願いした。

II. 報告事項

1. 第 2 回シンポジウム「今後の国立がん研究センターのあり方を考える」について
 - ・平成 25 年 4 月 15 日（月）に第 2 回シンポジウムを行った。第 1 回目は総論であったが今回は、診療のあり方、人材育成に絞って活発な議論が行なわれたとの報告がなされた。
 - ・次回、第 3 回のシンポジウムは 6 月 24 日に研究のあり方をメインテーマとして行う予定であるとの報告があった。
2. 日本版 N I H 創設について
 - ・日本版 N I H の創設についての情報提供がなされた。
 - ・最先端の技術開発だけを行うことが目標ではいけない。構想がどうしても成長戦略に走りがちで、偏ったものにならないよう留意する必要があるとの意見が出された。
3. 厚生労働省 今後のがん研究のあり方に関する有識者会議について
 - ・今後のがん研究のあり方に関する有識者会議が 4 月 15 日開催され、堀田理事長が議長に選任されたとの報告があった。
 - ・今後の有識者会議の検討スケジュールの説明がなされた。
4. 学際的研究支援室の再編について
 - ・学際的研究支援室の再編について説明がなされた。
 - ・4 月に早期・探索臨床研究センターを正式に発足したことにより、いままでの研究支援体制を整理し、組織的に明確にしたとの説明がなされた。
 - ・組織改正は、5 月 1 日に行うこととした。
5. がん予防・検診研究センターの再編について

- ・がん予防・検診センターの再編について説明がなされた。
 - ・最終形ではなく、現員の範囲内で編成した過渡的な再編となっている。現在建て替え中の新総合研究棟（仮称）ができる頃には、もう少し大がかりな組織の見直しを行うことになる。
6. 平成25年4月に設置したがんサバイバーシップ支援研究部及びがん政策科学研究部の使命と活動目標について
- ・がん対策情報センターがんサバイバーシップ支援研究部及びがん政策科学研究部の使命と活動目標について説明がなされた。
 - ・サバイバーシップ支援研究部は幅広い業務内容となっているが、実働は外部の研究員等による研究班に協力を求めていくとの説明がなされた。
 - ・がん政策科学研究部とがん統計研究部の業務の違いについて説明がなされた。
 - ・がんの治療等について患者さんである国民に情報が届いていないことから、今あるデータに患者さんがたどり着けるような情報発信ができるように取り組んでいくとの説明がなされた。
7. 「がんと共に働く」の日経B P 広告賞優秀デジタル広告賞受賞について
- ・がん対策情報センターが日経ビジネスオンラインに掲載した「がんと共に働く」が日経B P 広告賞の優秀デジタル広告賞を受賞したとの報告があった。
8. 改正労働契約法に関する対処方針について
- ・改正労働契約法に関する対応方針について説明がなされた。
 - ・今後、労働組合と交渉を行ったうえで、非常勤職員就業規則の改正をすることについて報告がなされた。
9. 知的財産戦略室の取り組みについて
- ・知的財産戦略室の2012年度報告と2013年度計画について説明がなされた。
10. 月次決算（3月分）について
- ・平成25年3月の月次決算については、年度末決算の時期であり、最終的な係数をまとめているところであるため、来月の理事会において年度決算を報告することとした。
 - ・平成25年3月までの病院運営状況について、報告がなされ、特に東病院の入院平均患者数、外来平均患者数、外来平均初診患者数が伸びているとの報告がなされた。
 - ・東病院では外来患者数の増加に伴い、来年3月竣工予定として外来の拡張工事を行っている。外来診察ブース等も増えることから、医療従事者の適正配置についても今後検討していくとの報告があった。
 - ・中央病院と東病院の外来平均単価の差については、陽子線治療が原因と考えられるが、陽子線を除いた外来平均単価の比較が必要という意見があった。

III. 審議事項

- ・特になし